

# 世界の財産 3分法ファンド (不動産・債券・株式) 毎月分配型

## [ ファンドの概要 ]

設定日 : 2005年9月29日

償還日 : 無期限

決算日 : 原則毎月15日 (休業日の場合は翌営業日)

収益分配 : 決算日毎



## [ ファンドの特色 ]

1. 6つのマザーファンドへの投資を通じて、国内外の3つの異なる資産(不動産・債券・株式)に分散投資するファンドです。
2. 各マザーファンドへの投資比率は、原則として、純資産総額の6分の1を基本とします。
3. 原則として、毎月、安定した収益分配を行なうことをめざします。

※当レポートでは基準価額および分配金を1万口当たりで表示しています。

※当レポートのグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

※当レポート中の各数値は四捨五入して表示している場合がありますので、それを用いて計算すると誤差が生じることがあります。

## 運用実績

### <基準価額の騰落率>

基準価額	13,415円
純資産総額	384.96億円

1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年	設定来
0.22%	5.35%	11.92%	11.82%	41.25%	183.10%

※基準価額の騰落率は、分配金(税引前)を再投資し計算しています。

### <分配金実績(税引前)と決算日の基準価額>

	設定来合計	直近12期計	25・1・15	25・2・17	25・3・17	25・4・15	25・5・15
分配金	5,660円	120円	10円	10円	10円	10円	10円
基準価額	—	—	11,896円	12,009円	11,683円	11,244円	11,763円
	25・6・16	25・7・15	25・8・15	25・9・16	25・10・15	25・11・17	25・12・15
分配金	10円	10円	10円	10円	10円	10円	10円
基準価額	11,900円	12,169円	12,512円	12,759円	12,889円	13,233円	13,307円

※基準価額は、信託報酬(後述の「手数料等の概要」参照)控除後の値です。

### <基準価額の推移グラフ(設定来)>



※基準価額は、信託報酬(後述の「手数料等の概要」参照)控除後の値です。

※分配金込み基準価額は、分配金(税引前)を再投資したものとして計算した理論上のものであることにご留意ください。

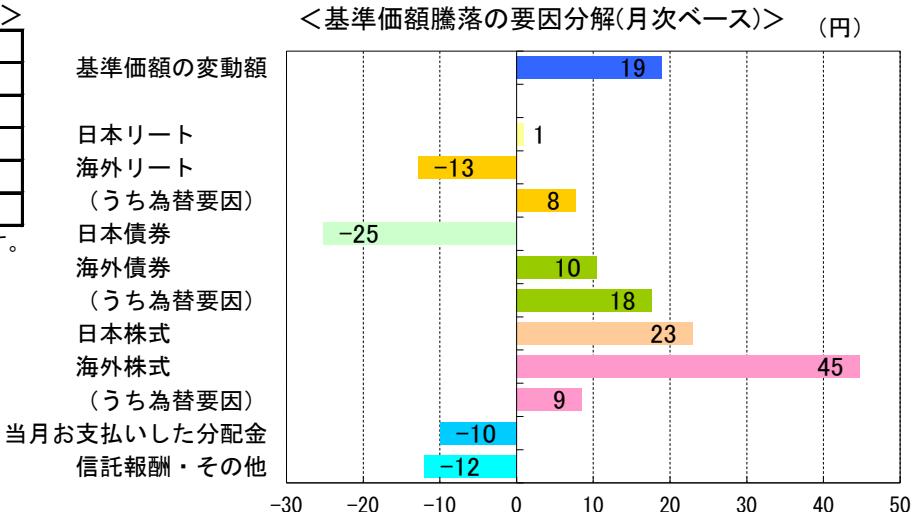
投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産は為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。後述のリスク情報とその他の留意事項をよくお読みください。

■当資料は、投資者の皆様に当ファンドへのご理解を高めていただくことを目的として、アモーヴァ・アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境や運用成果などを保証するものではありません。

## 世界の財産3分法ファンド (不動産・債券・株式) 毎月分配型

<各マザーファンドへの投資比率>	
日本リート	16.6%
海外リート	16.6%
日本債券	15.5%
海外債券	16.6%
日本株式	16.7%
海外株式	16.8%

※比率は、当ファンドの純資産総額比です。



※上記の要因分解は、概算値であり、実際の基準価額の変動を正確に説明するものではありません。傾向を知るための参考値としてご覧ください。

### 運用成績について

※運用方針等は作成基準日現在のものであり、将来の市場環境の変動等により変更される場合があります。

#### ①運用概況

当ファンドは、国内および海外の「不動産」「債券」「株式」の合計6つの異なる資産に分散投資を行ない、インカム収益の確保を図るとともに、信託財産の安定した成長をめざすファンドです。当ファンドでは、「不動産」は「日本リートインデックスJ－REITマザーファンド」「海外リートインデックス（ヘッジなし）マザーファンド」に、「債券」は「日本債券インデックスマザーファンド」「海外債券インデックス（ヘッジなし）マザーファンド」に、「株式」は「日本株式インデックスTOPIXマザーファンド」「海外株式インデックスMSCI-KOKUSAI（ヘッジなし）マザーファンド」に投資します。各資産の基本組入比率は、信託財産の純資産総額に対してそれぞれ6分の1程度を目処としています。

当月の基準価額の收益率はプラスとなりました。値上がりの主な要因としましては、海外株式や日本株式などの上昇が影響しました。それぞれの資産の市場概況につきましては、次ページ以降をご覧ください。

今後も、6つの異なる資産に分散投資を行なうという運用方針にもとづき、インカム収益の確保を図るとともに、信託財産の安定した成長をめざします。

投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産は為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。後述のリスク情報とその他の留意事項をよくお読みください。

■当資料は、投資者の皆様に当ファンドへのご理解を高めていただくことを目的として、アモーヴァ・アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境や運用成果などを保証するものではありません。

## 世界の財産3分法ファンド (不動産・債券・株式) 毎月分配型

### 日本リートインデックスJ-REITマザーファンド

#### <基準価額の推移グラフ>



#### <基準価額の騰落率>

	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年
当ファンド	0.03%	5.90%	15.85%	27.71%
ベンチマーク	0.01%	5.95%	15.96%	27.88%

※ベンチマークは「東証REIT指数（配当込み）」です。

※基準価額およびベンチマークは、2005年9月28日を10,000として指標化しています。

※当ベンチマークに関する著作権等の知的財産権その他一切の権利は株式会社JPX総研または株式会社JPX総研の関連会社に帰属します。

#### <資産構成比>

不動産投信	98.8%
現金その他	1.2%

#### <不動産投信 組入上位10銘柄> (銘柄数 58銘柄)

	銘柄名	比率
1	日本ビルファンド投資法人 投資証券	7.1%
2	ジャパンリアルエスティート投資法人 投資証券	5.7%
3	日本都市ファンド投資法人 投資証券	5.4%
4	野村不動産マスター・ファンド投資法人 投資証券	4.6%
5	KDX不動産投資法人 投資証券	4.3%
6	G LP投資法人 投資証券	4.1%
7	日本プロロジスリート投資法人 投資証券	4.0%
8	大和ハウスリート投資法人 投資証券	3.8%
9	オリックス不動産投資法人 投資証券	3.6%
10	ユナイテッド・アーバン投資法人 投資証券	3.5%

※比率は、当マザーファンドの純資産総額比です。

### 運用目標と市場概況

※運用方針等は作成基準日現在のものであり、将来の市場環境の変動等により変更される場合があります。

#### ◎運用目標

主として東京証券取引所に上場する不動産投資信託証券に投資を行ない、東証REIT指数（配当込み）の動きに連動する投資成果をめざして運用を行ないます。

#### ◎市場概況

12月の不動産投信市場は、前月末比で上昇しました。日銀が政策金利を引き上げたことや、国内長期金利が上昇したことなどがREIT価格の重しとなったものの、都心部オフィスの平均賃料の上昇が継続したことや空室率が低下したこと、国内株式市場が堅調に推移したことなどがREIT価格の支援材料となり、不動産投信市場は上昇しました。

投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産は為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。後述のリスク情報とその他の留意事項をよくお読みください。

■当資料は、投資者の皆様に当ファンドへのご理解を高めていただくことを目的として、アモーヴァ・アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境や運用成果などを保証するものではありません。

## 世界の財産3分法ファンド (不動産・債券・株式) 毎月分配型

### 海外リートインデックス(ヘッジなし)マザーファンド

#### 基準価額の推移グラフ



#### 基準価額の騰落率

	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年
当ファンド	-0.58%	5.37%	12.41%	6.01%
ベンチマーク	-0.66%	5.20%	12.06%	5.28%

※ベンチマークは「S & P 先進国R E I T 指数（除く日本、税引後配当込み、ヘッジなし・円ベース）」です。

※基準価額およびベンチマークは、2005年9月28日を10,000として指数化しています。

※当ベンチマークに関する著作権等の知的財産権その他一切の権利はS&P社に帰属します。

#### 資産構成比

不動産投信	98.4%
現金その他	1.6%

#### 不動産投信組入上位5カ国

	国名	比率
1	アメリカ	76.2%
2	オーストラリア	7.8%
3	イギリス	4.1%
4	シンガポール	3.5%
5	フランス	2.2%

※比率は、当マザーファンドの純資産総額比です。

#### 不動産投信組入上位10銘柄 (銘柄数 289銘柄)

	銘柄名	国名	比率
1	WELLTOWER INC	アメリカ	8.4%
2	PROLOGIS INC	アメリカ	7.7%
3	EQUINIX INC	アメリカ	4.8%
4	SIMON PROPERTY GROUP INC	アメリカ	3.9%
5	REALTY INCOME CORP	アメリカ	3.4%
6	DIGITAL REALTY TRUST INC	アメリカ	3.2%
7	GOODMAN GROUP	オーストラリア	2.8%
8	PUBLIC STORAGE	アメリカ	2.6%
9	VENTAS INC	アメリカ	2.4%
10	VICI PROPERTIES INC	アメリカ	1.9%

※比率は、当マザーファンドの純資産総額比です。

#### 運用目標と市場概況

※運用方針等は作成基準日現在のものであり、将来の市場環境の変動等により変更される場合があります。

##### 運用目標

主として日本を除く世界各国の金融商品取引所に上場する不動産投資信託証券に投資を行ない、S & P 先進国R E I T 指数（除く日本、税引後配当込み、ヘッジなし・円ベース）の動きに連動する投資成果をめざして運用を行ないます。

##### 市場概況

12月のS & P 先進国R E I T 指数（除く日本）は、前月末と比べて下落しました。

米国R E I T 指数は、前月末と比べて下落しました。上旬は、日本の長期金利が上昇したことや、米国のミシガン大学消費者マインド速報値が市場予想を上回ったこと、新規失業保険申請件数が市場予想を下回ったことなどを受けて、米国の長期金利が上昇しR E I T 價格の重しとなったことから、同指数は下落しました。中旬から下旬にかけては、米国連邦準備制度理事会（F R B）が利下げと共に短期金融市場の流動性を高めるための短期国債の買い入れを決定したことや、米国の消費者物価指数（C P I）が市場予想を下回りF R Bの追加利下げへの期待を強めたことなどが支援材料となり、同指数は上昇しました。

欧州R E I T 指数は、前月末と比べてやや上昇しました。上旬は、日本や米国の長期金利の上昇などを背景に欧州諸国の長期金利が総じて上昇したこと、欧州中央銀行（E C B）が当面は政策金利を据え置くとの観測が投資家心理の重しとなったことなどから、同指数は下落しました。中旬から下旬にかけては、イギリス銀行（B O E）やF R Bが政策金利を引き下げたこと、E C Bがユーロ圏の実質成長率見通しを上方修正したこと、欧州の主要な株価指数が堅調に推移したことなどがR E I T 價格の支援材料となり、同指数は上昇しました。

オーストラリアR E I T 指数は、前月末と比べて上昇しました。オーストラリア準備銀行（R B A）総裁の発言を受けてR B Aによる追加利下げ期待が後退したことや、日本の長期金利の上昇が欧米の債券市場にも影響したことなどからオーストラリアの長期金利が上昇したことがR E I T 價格の重しとなったものの、オーストラリアの株式市場が底堅く推移したことや、オーストラリアの大手総合不動産会社が欧州のデータセンター開発計画を発表し好感されたことなどが支援材料となり、同指数は上昇しました。

**投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産は為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。後述のリスク情報とその他の留意事項をよくお読みください。**

■当資料は、投資者の皆様に当ファンドへのご理解を高めていただくことを目的として、アモーヴァ・アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境や運用成果などを保証するものではありません。

## 世界の財産3分法ファンド (不動産・債券・株式) 毎月分配型

### 日本債券インデックススマザーファンド

#### <基準価額の推移グラフ>



#### <資産構成比>

債券	99.7%
債券先物	0.0%
現金その他	0.3%

#### <公社債種別構成比>

種別	比率
国債	84.8%
特殊債	3.1%
地方債	5.4%
金融債	0.3%
事業債	6.1%

※比率は、当マザーファンドの純資産総額比です。

#### <基準価額の騰落率>

	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年
当ファンド	-1.21%	-2.15%	-3.52%	-5.92%
ベンチマーク	-1.25%	-2.21%	-3.58%	-6.04%

※ベンチマークは「NOMURA-BPI総合」です。ただし、2016年12月31日までは、「日興債券パフォーマンスインデックス（総合）」です。

※基準価額およびベンチマークは、2005年9月28日を10,000として指数化しています。

※「NOMURA-BPI総合」は、野村フィデューシャリー・リサーチ＆コンサルティング株式会社（以下「NFRC」）が公表している指数で、その知的財産権はNFRCに帰属します。なお、NFRCは、対象インデックスの正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、対象インデックスを用いて行われるアモーヴァ・アセットマネジメント株式会社の事業活動・サービスに関し一切責任を負いません。

平均残存年数	10.22年
平均格付	A A +

※平均格付とは、データ基準日時点で当マザーファンドが保有している有価証券などに係る信用格付を加重平均したものであり、当マザーファンドに係る信用格付ではありません。

#### <公社債残存年数別構成比>

残存年数	比率
1年未満	0.3%
1~3年	23.3%
3~7年	28.8%
7~10年	18.8%
10年以上	28.5%

※比率は、当マザーファンドの純資産総額比です。

### 運用目標と市場概況

※運用方針等は作成基準日現在のものであり、将来の市場環境の変動等により変更される場合があります。

#### ◎運用目標

主としてわが国の公社債に投資し、NOMURA-BPI総合の動きに連動する投資成果をめざして運用を行ないます。

#### ◎市場概況

10年国債利回りは、前月末比で上昇（債券価格は下落）しました。財務省が発表した2026年度国債発行計画で、前年度当初予算比で超長期国債の発行額が減らされ需給の安定化が意識されたことや、東京都区部の消費者物価指数（CPI）が市場予想を下回ったことなどが利回りの低下（債券価格は上昇）要因となったものの、政府が掲げる積極財政で国債発行圧力が強まるなか、日銀による政策金利の引き上げが決定されたことや、「利上げ幅が不十分」との見方から為替市場で一時円安が加速し、日銀の追加利上げが早まるとの見方が広がったことなどから、10年国債利回りは上昇しました。

国庫短期証券（T B）3ヶ月物金利は、前月末比で上昇しました。

その他国債の利回りは、40年物の国債利回りが前月末比で低下しましたが、これ以外の年限については上昇しました。

**投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産は為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。後述のリスク情報とその他の留意事項をよくお読みください。**

■当資料は、投資者の皆様に当ファンドへのご理解を高めていただくことを目的として、アモーヴァ・アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境や運用成果などを保証するものではありません。

## 世界の財産3分法ファンド (不動産・債券・株式) 毎月分配型

### 海外債券インデックス(ヘッジなし)マザーファンド

#### <基準価額の推移グラフ>



#### <資産構成比>

債券	99.0%
債券先物	0.0%
現金その他	1.0%

#### <公社債通貨別組入上位5通貨>

	通貨	比率
1	アメリカドル	45.3%
2	ユーロ	29.3%
3	中国元	11.7%
4	イギリスポンド	5.8%
5	カナダドル	2.0%

※比率は、当マザーファンドの純資産総額比です。

#### <基準価額の騰落率>

	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年
当ファンド	0.47%	6.55%	10.33%	8.41%
ベンチマーク	0.45%	6.51%	10.34%	8.46%

※ベンチマークは「FTSE世界国債インデックス(除く日本、ヘッジなし・円ベース)」です。

※基準価額およびベンチマークは、2005年9月28日を10,000として指数化しています。

※当ベンチマークは、FTSE Fixed Income LLCにより運営されている債券インデックスです。当ベンチマークはFTSE Fixed Income LLCの知的財産であり、ベンチマークに関するすべての権利はFTSE Fixed Income LLCが有しています。

平均残存年数	8.83年
平均格付	A A

※平均格付とは、データ基準日時点で当マザーファンドが保有している有価証券などに係る信用格付を加重平均したものであり、当マザーファンドに係る信用格付ではありません。

#### <公社債残存年数別構成比>

残存年数	比率
1年未満	1.3%
1~3年	28.4%
3~7年	33.8%
7~10年	12.9%
10年以上	22.6%

※比率は、当マザーファンドの純資産総額比です。

### 運用目標と市場概況

※運用方針等は作成基準日現在のものであり、将来の市場環境の変動等により変更される場合があります。

#### ◎運用目標

主として日本を除く世界各国の債券に投資し、FTSE世界国債インデックス(除く日本、ヘッジなし・円ベース)の動きに連動する投資成果をめざして運用を行ないます。

#### ◎市場概況

米国の債券利回りは、10年国債、5年国債は上昇(債券価格は下落)、2年国債は低下(債券価格は上昇)しました。米国連邦準備制度理事会(FRB)が追加利下げと共に、短期金融市场の流動性を高めるための短期国債の買入れを決定したことや、米国の消費者物価指数(CPI)が市場予想を下回ったことなどが利回りの低下要因となったものの、米国の実質国内総生産(GDP)速報値、ミシガン大学消費者マインド速報値が市場予想を上回り米国経済の底堅さを示したことや、日本の長期金利の上昇が欧米の債券市場にも影響したことなどが、利回りの上昇要因となりました。

12月の欧洲債券市場では、各国の10年債利回りは前月末比で総じて上昇(債券価格は下落)しました。イングランド銀行(BOE)が追加利下げを決定したことなどが利回りの低下(債券価格は上昇)要因となったものの、欧洲連合(EU)が市場から借り入れた資金をウクライナに融資する案に合意し、債券市場の需給悪化が懸念されたことや、ドイツの鉱工業生産が市場予想を上回ったこと、日本の長期金利の上昇が欧米の債券市場にも影響したことなどから、利回りは総じて上昇しました。

アメリカドルは円に対して下落しました。米国雇用動態調査(JOLTS)で非農業部門の求人件数が市場予想を上回ったことや、金融政策決定会合後の日銀総裁の発言から日銀が追加利上げを急がないと受け止められたことなどがアメリカドルの上昇要因となったものの、米国連邦準備制度理事会(FRB)が追加利下げを決めた一方で、日銀が追加利上げを決定したことや、日本の財務大臣の発言を受けて日本政府・日銀による円買いの為替介入が近づいているとの警戒感が強まつことなどから、アメリカドルは円に対して下落しました。

12月の円/ユーロ相場は、前月末比で円安/ユーロ高となりました。日銀が追加利上げを決定したことや、ユーロ圏やドイツの総合購買担当者景気指数(PMI)速報値が市場予想を下回ったことなどが円高/ユーロ安の要因となったものの、大型政府予算案を受けて日本で財政悪化懸念が強まつたことや、金融政策決定会合後の日銀総裁の発言から日銀が追加利上げを急がないと受け止められたことなどを背景に、円安/ユーロ高となりました。

**投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産は為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。後述のリスク情報とその他の留意事項をよくお読みください。**

■当資料は、投資者の皆様に当ファンドへのご理解を高めていただくことを目的として、アモーヴァ・アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境や運用成果などを保証するものではありません。

## 世界の財産3分法ファンド (不動産・債券・株式) 毎月分配型

### 日本株式インデックスTOPIXマザーファンド

#### ＜基準価額の推移グラフ＞



#### ＜基準価額の騰落率＞

	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年
当ファンド	1.04%	8.83%	20.87%	25.52%
ベンチマーク	1.03%	8.82%	20.84%	25.46%

※ベンチマークは「TOPIX（東証株価指数）配当込み」です。

※基準価額およびベンチマークは、2005年9月28日を10,000として指標化しています。

※当ベンチマークに関する著作権等の知的財産権その他一切の権利は株式会社JPX総研または株式会社JPX総研の関連会社に帰属します。

#### ＜資産構成比＞

資産種別	比率
株式	99.6%
株式先物	0.4%
現金その他	0.4%

#### ＜株式組入上位5業種＞

順位	業種	比率
1	電気機器	18.4%
2	銀行業	10.1%
3	卸売業	7.7%
4	情報・通信業	7.2%
5	輸送用機器	7.0%

※比率は、当マザーファンドの組入株式時価総額比です。

#### ＜株式組入上位10銘柄＞（銘柄数 1657銘柄）

順位	銘柄名	業種	比率
1	トヨタ自動車	輸送用機器	3.7%
2	三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	3.2%
3	ソニーグループ	電気機器	2.9%
4	日立製作所	電気機器	2.6%
5	三井住友フィナンシャルグループ	銀行業	2.3%
6	ソフトバンクグループ	情報・通信業	1.7%
7	みずほフィナンシャルグループ	銀行業	1.6%
8	三菱商事	卸売業	1.6%
9	東京エレクトロン	電気機器	1.5%
10	三菱重工業	機械	1.5%

※比率は、当マザーファンドの純資産総額比です。

### 運用目標と市場概況

※運用方針等は作成基準日現在のものであり、将来の市場環境の変動等により変更される場合があります。

#### ◎運用目標

主として日本の株式に投資し、TOPIX（東証株価指数）配当込みの動きに連動する投資成果をめざして運用を行ないます。

#### ◎市場概況

12月の国内株式市場は、東証株価指数（TOPIX）が前月末比プラス0.90%、日経平均株価が同プラス0.17%となりました。日銀総裁の「利上げの是非を適切に判断したい」との発言を受けて日銀による利上げ期待が強まつたことや、人工知能（AI）への過剰投資に対する警戒感から米国の関連株が一時売られたことなどが株価の重しとなつた一方で、日銀が市場予想通り政策金利を引き上げたものの「利上げ幅が不十分」との見方から円安が進行したことや、東京都区部の消費者物価指数（CPI）が市場予想を下回ったこと、米国の経済指標が景気の底堅さを示す内容となったことや米国連邦準備制度理事会（FRB）が金融緩和の姿勢を示すなか、米国株式市場が上昇したことなどが株価の支援材料となり、国内株式市場は上昇しました。

東証33業種分類では、保険業、証券、商品先物取引業、石油・石炭製品などの21業種が上昇する一方、その他製品、電気・ガス業、鉱業などの12業種が下落しました。

投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産は為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。後述のリスク情報とその他の留意事項をよくお読みください。

■当資料は、投資者の皆様に当ファンドへのご理解を高めていただくことを目的として、アモーヴァ・アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境や運用成果などを保証するものではありません。

## 世界の財産3分法ファンド (不動産・債券・株式) 毎月分配型

海外株式インデックスMSCI-KOKUSAI(ヘッジなし)マザーファンド

### <基準価額の推移グラフ>



### <基準価額の騰落率>

	1カ月	3カ月	6カ月	1年
当ファンド	2.02%	9.68%	21.00%	19.14%
ベンチマーク	2.00%	9.60%	20.84%	18.89%

※ベンチマークは「MSCI-KOKUSAIインデックス（税引後配当込み、円ヘッジなし・円ベース）」です。  
※基準価額およびベンチマークは、2005年9月28日を10,000として指数化しています。  
※当ベンチマークに関する著作権等の知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。

### <資産構成比>

株式	98.4%
株式先物	1.7%
現金その他	1.6%

### <株式組入上位5カ国>

順位	国名	比率
1	アメリカ	74.4%
2	イギリス	3.7%
3	カナダ	3.6%
4	スイス	2.7%
5	フランス	2.5%

※比率は、当マザーファンドの純資産総額比です。

### <株式組入上位10銘柄> (銘柄数 1137銘柄)

順位	銘柄名	国名	業種	比率
1	NVIDIA CORP	アメリカ	半導体・半導体製造装置	5.7%
2	APPLE INC	アメリカ	テクノロジー・ハードウェア	5.1%
3	MICROSOFT CORP	アメリカ	ソフトウェア・サービス	4.3%
4	AMAZON.COM INC	アメリカ	一般消費財・サービス流通	2.8%
5	ALPHABET INC-CL A	アメリカ	メディア・娯楽	2.3%
6	BROADCOM INC	アメリカ	半導体・半導体製造装置	2.0%
7	ALPHABET INC-CL C	アメリカ	メディア・娯楽	1.9%
8	META PLATFORMS INC-CLASS A	アメリカ	メディア・娯楽	1.8%
9	TESLA INC	アメリカ	自動車・自動車部品	1.6%
10	JPMORGAN CHASE & CO	アメリカ	銀行	1.1%

※比率は、当マザーファンドの純資産総額比です。

### 運用目標と市場概況

※運用方針等は作成基準日現在のものであり、将来の市場環境の変動等により変更される場合があります。

#### ◎運用目標

主として日本を除く世界各国の株式に投資し、MSCI-KOKUSAIインデックス（税引後配当込み、円ヘッジなし・円ベース）の動きに連動する投資成果をめざして運用を行ないます。

#### ◎市場概況

米国株式市場は、前月末と比べて上昇しました。米国の生成AI（人工知能）への過剰投資に対する警戒感の高まりや、米国のISM製造業景況指数が市場予想を下回ったことなどが株価の下落要因となったものの、米国連邦準備制度理事会（FRB）が追加利下げを実施したことや、消費者物価指数（CPI）が市場予想を下回りインフレへの警戒感が緩和されたこと、一部ハイテク企業の決算が堅調となり生成AIの関連需要が期待されたことなどから、株価は上昇しました。

欧州株式市場は、前月末と比べて総じて上昇しました。英国の月次GDP成長率が市場予想を下回ったことや、欧洲中央銀行（ECB）が政策金利を据え置き、利下げ局面を終了する公算が大きいとみられたことなどが株価の重しとなったものの、英国の消費者物価指数（CPI）が市場予想を下回りイングランド銀行（BOE）が利下げを行なったことや、ドイツの鉱工業生産やZEW景気期待指数が市場予想を上回ったことなどが支援材料となり、株価は総じて上昇しました。

**投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産は為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。後述のリスク情報とその他の留意事項をよくお読みください。**

■当資料は、投資者の皆様に当ファンドへのご理解を高めていただくことを目的として、アモーヴァ・アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境や運用成果などを保証するものではありません。

**■お申込みメモ**

<b>商品分類</b>	追加型投信／内外／資産複合
<b>購入単位</b>	販売会社が定める単位
<b>購入価額</b>	※販売会社の照会先にお問い合わせください。
<b>信託期間</b>	購入申込受付日の翌営業日の基準価額
<b>決算日</b>	無期限（2005年9月29日設定）
<b>収益分配</b>	毎月15日（休業日の場合は翌営業日） 毎決算時に、分配金額は、委託会社が決定するものとし、原則として、安定した分配を継続的に行なうことをめざします。
<b>換金価額</b>	※将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。
<b>購入・換金申込不可日</b>	換金申込受付日の翌営業日の基準価額から信託財産留保額を控除した価額 販売会社の営業日であっても、購入・換金の申込日がニューヨーク証券取引所の休業日またはニューヨークの銀行休業日に該当する場合は、購入・換金の申込みの受付は行ないません。 詳しくは、販売会社にお問い合わせください。
<b>換金代金</b>	原則として、換金申込受付日から起算して5営業日目からお支払いします。
<b>課税関係</b>	原則として、分配時の普通分配金ならびに換金時および償還時の差益は課税の対象となります。 ※課税上は、株式投資信託として取り扱われます。 ※公募株式投資信託は税法上、一定の要件を満たした場合に少額投資非課税制度（NISA）の適用対象となります。 ※当ファンドは、NISA の対象ではありません。 ※配当控除の適用はありません。 ※益金不算入制度は適用されません。

**■手数料等の概要**

投資者の皆様には、以下の費用をご負担いただきます。

＜申込時、換金時にご負担いただく費用＞

<b>購入時手数料</b>	<u>購入時の基準価額に対し3.3%（税抜3%）以内</u> ※購入時手数料は販売会社が定めます。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。 ※収益分配金の再投資により取得する口数については、購入時手数料はかかりません。 《ご参考》 （金額指定で購入する場合） 購入金額に購入時手数料を加えた合計額が指定金額（お支払いいただく金額）となるよう購入口数を計算します。 例えば、指定金額の100万円の中から購入時手数料（税込）をいただきますので、100万円全額が当ファンドの購入金額とはなりません。 ※上記の計算方法と異なる場合があります。詳しくは販売会社にお問い合わせください。 （口数指定で購入する場合） 例えば、基準価額10,000円のときに、購入時手数料率3.3%（税込）で、100万口ご購入いただく場合は、次のように計算します。 $\text{購入金額} = (10,000\text{円}/1\text{万口}) \times 100\text{万口} = 100\text{万円}, \text{ 購入時手数料} = \text{購入金額} (100\text{万円}) \times 3.3\% (\text{税込}) = 33,000\text{円}$ となり、購入金額に購入時手数料を加えた合計額103万3,000円をお支払いいただくことになります。
---------------	---

**換金手数料**

ありません。

**信託財産留保額**

換金時の基準価額に対し0.2%

＜信託財産で間接的にご負担いただく（ファンドから支払われる）費用＞

**運用管理費用**  
(信託報酬)

ファンドの日々の純資産総額に対し年率1.045%（税抜0.95%）

**その他の費用・手数料**

目論見書などの作成・交付に係る費用および監査費用、約款で定めるマザーファンドの運用において利用する指標の標準使用料などについては、ファンドの日々の純資産総額に対して年率0.1%を乗じた額の信託期間を通じた合計を上限とする額が信託財産から支払われます。

組入有価証券の売買委託手数料、資産を外国で保管する場合の費用、借入金の利息および立替金の利息などがその都度、信託財産から支払われます。

※運用状況などにより変動するものであり、事前に料率、上限額などを表示することはできません。

※投資者の皆様にご負担いただくファンドの費用などの合計額については、保有期間や運用の状況などに応じて異なりますので、表示することができません。

※詳しくは、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。

**■委託会社、その他関係法人**

**委託会社**

アモーヴァ・アセットマネジメント株式会社

**受託会社**

野村信託銀行株式会社

**販売会社**

販売会社については下記にお問い合わせください。

アモーヴァ・アセットマネジメント株式会社

[ホームページ] [www.amova-am.com](http://www.amova-am.com)

[コールセンター] 0120-25-1404 (午前9時～午後5時。土、日、祝・休日は除く。)

**■お申込みに際しての留意事項****○リスク情報**

投資者の皆様の投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者（受益者）の皆様に帰属します。なお、当ファンドは預貯金とは異なります。

当ファンドは、主に不動産投信、債券および株式を実質的な投資対象としますので、不動産投信、債券および株式の価格の下落や、不動産投信、債券および株式の発行体の財務状況や業績の悪化、不動産の市況の悪化などの影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。また、外貨建資産に投資する場合には、為替の変動により損失を被ることがあります。

投資対象とする投資信託証券の主なリスクは以下の通りです。

**【価格変動リスク】**

- ・不動産投信は、不動産や不動産証券化商品に投資して得られる収入や売却益などを収益源としており、不動産を取り巻く環境や規制、賃料水準、稼働率、不動産市況や長短の金利動向、マクロ経済の変化など様々な要因により価格が変動します。また、不動産の老朽化や立地条件の変化、火災、自然災害などに伴なう不動産の減失・毀損などにより、その価格が影響を受ける可能性もあります。不動産投信の財務状況、業績や市況環境が悪化する場合、不動産投信の分配金や価格は下がり、ファンドに損失が生じるリスクがあります。
- ・公社債は、金利変動により価格が変動するリスクがあります。一般に金利が上昇した場合には価格は下落し、ファンドの基準価額が値下がりする要因となります。ただし、その価格変動幅は、残存期間やクーポンレートなどの発行条件などにより債券ごとに異なります。
- ・株式の価格は、会社の成長性や収益性の企業情報および当該情報の変化に影響を受けて変動します。また、国内および海外の経済・政治情勢などの影響を受けて変動します。ファンドにおいては、株式の価格変動または流動性の予想外の変動があった場合、重大な損失が生じるリスクがあります。

**【流動性リスク】**

- ・市場規模や取引量が少ない状況においては、有価証券の取得、売却時の売買価格は取引量の大きさに影響を受け、市場実勢から期待できる価格どおりに取引できないリスク、評価価格どおりに売却できないリスク、あるいは、価格の高低に関わらず取引量が限られてしまうリスクがあり、その結果、不測の損失を被るリスクがあります。

**【信用リスク】**

- ・不動産投信が支払不能や債務超過の状態になった場合、またはそうなることが予想される場合、ファンドにも重大な損失が生じるリスクがあります。
- ・公社債および短期金融資産の発行体にデフォルト（債務不履行）が生じた場合またはそれが予想される場合には、公社債および短期金融資産の価格が下落（価格がゼロになることもあります。）し、ファンドの基準価額が値下がりする要因となります。また、実際にデフォルトが生じた場合、投資した資金が回収できないリスクが高い確率で発生します。
- ・投資した企業の経営などに直接・間接を問わず重大な危機が生じた場合には、ファンドにも重大な損失が生じるリスクがあります。デフォルト（債務不履行）や企業倒産の懸念から、発行体の株式などの価格は大きく下落（価格がゼロになることもあります。）し、ファンドの基準価額が値下がりする要因となります。

**【為替変動リスク】**

- ・外貨建資産については、一般に外国為替相場が当該資産の通貨に対して円高になった場合には、ファンドの基準価額が値下がりする要因となります。

※ファンドが投資対象とする投資信託証券は、これらの影響を受けて価格が変動しますので、ファンド自身にもこれらのリスクがあります。

※基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

## ○その他の留意事項

- ・当資料は、投資者の皆様に「世界の財産3分法ファンド（不動産・債券・株式）毎月分配型」へのご理解を高めていただくことを目的として、アモーヴァ・アセットマネジメントが作成した販売用資料です。
- ・当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリング・オフ）の適用はありません。
- ・投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、銀行など登録金融機関で購入された場合、投資者保護基金の支払いの対象とはなりません。
- ・投資信託の運用による損益は、すべて受益者の皆様に帰属します。当ファンドをお申込みの際には、投資信託説明書（交付目論見書）などを販売会社よりお渡ししますので、内容を必ずご確認のうえ、お客様ご自身でご判断ください。

設定・運用は アモーヴァ・アセットマネジメント株式会社  
金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第368号  
加入協会：一般社団法人投資信託協会  
一般社団法人日本投資顧問業協会

## 投資信託説明書(交付目論見書)のご請求・お申込みは

金融商品取引業者等の名称	登録番号	加入協会			
		日本証券業協会	一般社団法人日本投資顧問業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会
愛知北農業協同組合	登録金融機関 東海財務局長（登金）第82号				
愛知県信用農業協同組合連合会	登録金融機関 東海財務局長（登金）第177号				
あいち知多農業協同組合	登録金融機関 東海財務局長（登金）第187号				
あいち中央農業協同組合	登録金融機関 東海財務局長（登金）第84号				
あいち豊田農業協同組合	登録金融機関 東海財務局長（登金）第144号				
愛知西農業協同組合	登録金融機関 東海財務局長（登金）第193号				
愛知東農業協同組合	登録金融機関 東海財務局長（登金）第85号				
あいち尾東農業協同組合	登録金融機関 東海財務局長（登金）第182号				
あいち三河農業協同組合	登録金融機関 東海財務局長（登金）第183号				
あかつき証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第67号	○	○	○	
秋田しんせい農業協同組合	登録金融機関 東北財務局長（登金）第79号				
あさか野農業協同組合	登録金融機関 関東財務局長（登金）第558号				
厚木市農業協同組合	登録金融機関 関東財務局長（登金）第322号				
淡路日の出農業協同組合	登録金融機関 近畿財務局長（登金）第216号				
株式会社イオン銀行 (委託金融商品取引業者 マネックス証券株式会社)	登録金融機関 関東財務局長（登金）第633号	○			
伊賀ふるさと農業協同組合	登録金融機関 東海財務局長（登金）第91号				
石川県信用農業協同組合連合会	登録金融機関 北陸財務局長（登金）第100号				
いしのまき農業協同組合	登録金融機関 東北財務局長（登金）第166号				
いづみの農業協同組合	登録金融機関 近畿財務局長（登金）第272号				
伊勢農業協同組合	登録金融機関 東海財務局長（登金）第94号				
茨木市農業協同組合	登録金融機関 近畿財務局長（登金）第122号				
茨城みなみ農業協同組合	登録金融機関 関東財務局長（登金）第581号				
いび川農業協同組合	登録金融機関 東海財務局長（登金）第101号				
いるま野農業協同組合	登録金融機関 関東財務局長（登金）第343号				
魚沼農業協同組合	登録金融機関 関東財務局長（登金）第672号				
株式会社SMB C信託銀行 ※右の他に一般社団法人投資信託協会にも加入	登録金融機関 関東財務局長（登金）第653号	○	○		○
SMB C日興証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第2251号	○	○	○	○
株式会社SBI証券 ※右の他に一般社団法人JSTO協会にも加入	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第44号	○		○	○
株式会社SBI新生銀行 (委託金融商品取引業者 株式会社SBI証券) (委託金融商品取引業者 マネックス証券株式会社)	登録金融機関 関東財務局長（登金）第10号	○		○	
えちご中越農業協同組合	登録金融機関 関東財務局長（登金）第669号				
遠州中央農業協同組合	登録金融機関 東海財務局長（登金）第102号				
遠州夢咲農業協同組合	登録金融機関 東海財務局長（登金）第104号				
大井川農業協同組合	登録金融機関 東海財務局長（登金）第105号				
大阪市農業協同組合	登録金融機関 近畿財務局長（登金）第129号				
大阪泉州農業協同組合	登録金融機関 近畿財務局長（登金）第261号				
大阪中河内農業協同組合	登録金融機関 近畿財務局長（登金）第262号				
大阪府信用農業協同組合連合会	登録金融機関 近畿財務局長（登金）第237号				
大阪南農業協同組合	登録金融機関 近畿財務局長（登金）第133号				
沖縄県農業協同組合	登録金融機関 沖縄総合事務局長（登金）第21号				
沖縄県労働金庫	登録金融機関 沖縄総合事務局長（登金）第8号				
越智今治農業協同組合	登録金融機関 四国財務局長（登金）第40号				
尾張中央農業協同組合	登録金融機関 東海財務局長（登金）第192号				
加賀農業協同組合	登録金融機関 北陸財務局長（登金）第55号				
株式会社香川銀行	登録金融機関 四国財務局長（登金）第7号	○			
香川県農業協同組合	登録金融機関 四国財務局長（登金）第97号				
掛川市農業協同組合	登録金融機関 東海財務局長（登金）第113号				
神奈川県信用農業協同組合連合会	登録金融機関 関東財務局長（登金）第515号				
かながわ西湘農業協同組合	登録金融機関 関東財務局長（登金）第613号				
神奈川つくり農業協同組合	登録金融機関 関東財務局長（登金）第333号				
金沢市農業協同組合	登録金融機関 北陸財務局長（登金）第57号				
金沢中央農業協同組合	登録金融機関 北陸財務局長（登金）第58号				
上伊那農業協同組合	登録金融機関 関東財務局長（登金）第484号				
北大阪農業協同組合	登録金融機関 近畿財務局長（登金）第156号				
北河内農業協同組合	登録金融機関 近畿財務局長（登金）第263号				
北つくば農業協同組合	登録金融機関 関東財務局長（登金）第397号				
北新潟農業協同組合	登録金融機関 関東財務局長（登金）第437号				
ぎふ農業協同組合	登録金融機関 東海財務局長（登金）第118号				

## 投資信託説明書(交付目論見書)のご請求・お申込みは

金融商品取引業者等の名称	登録番号	加入協会		
		日本証券業協会	一般社団法人日本投資顧問業協会	一般社団法人金融先物取引業協会
九州労働金庫	登録金融機関	福岡財務局長（登金）第39号		
近畿労働金庫	登録金融機関	近畿財務局長（登金）第90号		
くまがや農業協同組合	登録金融機関	関東財務局長（登金）第346号		
グリーン大阪農業協同組合	登録金融機関	近畿財務局長（登金）第171号		
グリーン長野農業協同組合	登録金融機関	関東財務局長（登金）第487号		
甲賀農業協同組合	登録金融機関	近畿財務局長（登金）第172号		
高知市農業協同組合	登録金融機関	四国財務局長（登金）第50号		
越谷市農業協同組合	登録金融機関	関東財務局長（登金）第347号		
小松市農業協同組合	登録金融機関	北陸財務局長（登金）第64号		
さいかつ農業協同組合	登録金融機関	関東財務局長（登金）第576号		
埼玉県信用農業協同組合連合会	登録金融機関	関東財務局長（登金）第516号		
埼玉中央農業協同組合	登録金融機関	関東財務局長（登金）第348号		
さいたま農業協同組合	登録金融機関	関東財務局長（登金）第555号		
埼玉みずほ農業協同組合	登録金融機関	関東財務局長（登金）第349号		
埼市農業協同組合	登録金融機関	近畿財務局長（登金）第178号		
さがえ西村山農業協同組合	登録金融機関	東北財務局長（登金）第156号		
さがみ農業協同組合	登録金融機関	関東財務局長（登金）第328号		
相模原市農業協同組合	登録金融機関	関東財務局長（登金）第329号		
佐久浅間農業協同組合	登録金融機関	関東財務局長（登金）第554号		
佐渡農業協同組合	登録金融機関	関東財務局長（登金）第441号		
佐波伊勢崎農業協同組合	登録金融機関	関東財務局長（登金）第415号		
株式会社滋賀銀行	登録金融機関	近畿財務局長（登金）第11号	○	○
滋賀県信用農業協同組合連合会	登録金融機関	近畿財務局長（登金）第239号		
四国労働金庫	登録金融機関	四国財務局長（登金）第26号		
静岡県信用農業協同組合連合会	登録金融機関	東海財務局長（登金）第179号		
静岡県労働金庫	登録金融機関	東海財務局長（登金）第72号		
静岡市農業協同組合	登録金融機関	東海財務局長（登金）第129号		
島根県農業協同組合	登録金融機関	中国財務局長（登金）第170号		
清水農業協同組合	登録金融機関	東海財務局長（登金）第130号		
庄内たがわ農業協同組合	登録金融機関	東北財務局長（登金）第153号		
湘南農業協同組合	登録金融機関	関東財務局長（登金）第330号		
信州うえだ農業協同組合	登録金融機関	関東財務局長（登金）第496号		
信州諏訪農業協同組合	登録金融機関	関東財務局長（登金）第598号		
新みやぎ農業協同組合	登録金融機関	東北財務局長（登金）第129号		
鈴鹿農業協同組合	登録金融機関	東海財務局長（登金）第195号		
スルガ銀行株式会社	登録金融機関	東海財務局長（登金）第8号	○	
セレサ川崎農業協同組合	登録金融機関	関東財務局長（登金）第331号		
仙台農業協同組合	登録金融機関	東北財務局長（登金）第111号		
大北農業協同組合	登録金融機関	関東財務局長（登金）第501号		
大和証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第108号	○	○
※右の他に一般社団法人日本STO協会にも加入			○	○
高崎市農業協同組合	登録金融機関	関東財務局長（登金）第416号		
たじま農業協同組合	登録金融機関	近畿財務局長（登金）第197号		
丹波ひかみ農業協同組合	登録金融機関	近畿財務局長（登金）第200号		
中央労働金庫	登録金融機関	関東財務局長（登金）第259号		
中国労働金庫	登録金融機関	中国財務局長（登金）第53号		
津安芸農業協同組合	登録金融機関	東海財務局長（登金）第138号		
鶴岡市農業協同組合	登録金融機関	東北財務局長（登金）第154号		
東海東京証券株式会社	金融商品取引業者	東海財務局長（金商）第140号	○	○
※右の他に一般社団法人日本STO協会にも加入			○	○
東海労働金庫	登録金融機関	東海財務局長（登金）第70号		
東京都信用農業協同組合連合会	登録金融機関	関東財務局長（登金）第514号		
東北労働金庫	登録金融機関	東北財務局長（登金）第68号		
株式会社東と銀行	登録金融機関	関東財務局長（登金）第60号	○	
徳島県信用農業協同組合連合会	登録金融機関	四国財務局長（登金）第94号		
徳島市農業協同組合	登録金融機関	四国財務局長（登金）第72号		
鳥取いなば農業協同組合	登録金融機関	中国財務局長（登金）第107号		
株式会社鳥取銀行	登録金融機関	中国財務局長（登金）第3号	○	
鳥取西部農業協同組合	登録金融機関	中国財務局長（登金）第108号		
鳥取中央農業協同組合	登録金融機関	中国財務局長（登金）第109号		
とびあ浜松農業協同組合	登録金融機関	東海財務局長（登金）第142号		
豊橋農業協同組合	登録金融機関	東海財務局長（登金）第145号		
長野県信用農業協同組合連合会	登録金融機関	関東財務局長（登金）第523号		
長野県労働金庫	登録金融機関	関東財務局長（登金）第268号		
中野市農業協同組合	登録金融機関	関東財務局長（登金）第505号		

## 投資信託説明書(交付目論見書)のご請求・お申込みは

金融商品取引業者等の名称	登録番号	加入協会		
		日本証券業協会	一般社団法人日本投資顧問業協会	一般社団法人金融先物取引業協会
ながの農業協同組合	登録金融機関 関東財務局長（登金）第506号			
那須南農業協同組合	登録金融機関 関東財務局長（登金）第535号			
奈良県農業協同組合	登録金融機関 近畿財務局長（登金）第247号			
南彩農業協同組合	登録金融機関 関東財務局長（登金）第356号			
新潟かがやき農業協同組合	登録金融機関 関東財務局長（登金）第667号			
新潟県信用農業協同組合連合会	登録金融機関 関東財務局長（登金）第522号			
新潟県労働金庫	登録金融機関 関東財務局長（登金）第267号			
西春日井農業協同組合	登録金融機関 東海財務局長（登金）第151号			
西三河農業協同組合	登録金融機関 東海財務局長（登金）第186号			
西美濃農業協同組合	登録金融機関 東海財務局長（登金）第184号			
能登農業協同組合	登録金融機関 北陸財務局長（登金）第105号			
能登わかば農業協同組合	登録金融機関 北陸財務局長（登金）第79号			
能美農業協同組合	登録金融機関 北陸財務局長（登金）第80号			
ハイナン農業協同組合	登録金融機関 東海財務局長（登金）第154号			
はが野農業協同組合	登録金融機関 関東財務局長（登金）第391号			
はくい農業協同組合	登録金融機関 北陸財務局長（登金）第107号			
秦野市農業協同組合	登録金融機関 関東財務局長（登金）第334号			
株式会社八十二銀行	登録金融機関 関東財務局長（登金）第49号	○		○
株式会社八十二銀行 (委託金融商品取引業者 八十二証券株式会社)	登録金融機関 関東財務局長（登金）第49号	○		○
八十二証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第21号	○	○	
東美濃農業協同組合	登録金融機関 東海財務局長（登金）第157号			
飛騨農業協同組合	登録金融機関 東海財務局長（登金）第158号			
株式会社百十四銀行	登録金融機関 四国財務局長（登金）第5号	○		○
丘庫県信用農業協同組合連合会	登録金融機関 近畿財務局長（登金）第241号			
兵庫西農業協同組合	登録金融機関 近畿財務局長（登金）第256号			
兵庫南農業協同組合	登録金融機関 近畿財務局長（登金）第246号			
広島市農業協同組合	登録金融機関 中国財務局長（登金）第123号			
ひろしま農業協同組合	登録金融機関 中国財務局長（登金）第172号			
ふかや農業協同組合	登録金融機関 関東財務局長（登金）第575号			
福岡八女農業協同組合	登録金融機関 福岡財務支局長（登金）第100号			
ふくしま未来農業協同組合	登録金融機関 東北財務局長（登金）第109号			
富士伊豆農業協同組合	登録金融機関 東海財務局長（登金）第148号			
ほくさい農業協同組合	登録金融機関 関東財務局長（登金）第559号			
北陸労働金庫	登録金融機関 北陸財務局長（登金）第36号			
北海道労働金庫	登録金融機関 北海道財務局長（登金）第38号			
松井証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第164号	○		○
松本ハイランド農業協同組合	登録金融機関 関東財務局長（登金）第509号			
マネックス証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第165号	○	○	○
三重県信用農業協同組合連合会	登録金融機関 東海財務局長（登金）第180号			
三ヶ日町農業協同組合	登録金融機関 東海財務局長（登金）第170号			
三菱UFJ eスマート証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第61号	○	○	○
みなみ信州農業協同組合	登録金融機関 関東財務局長（登金）第512号			
株式会社南日本銀行	登録金融機関 九州財務局長（登金）第8号	○		
みやぎ仙南農業協同組合	登録金融機関 東北財務局長（登金）第131号			
みやぎ登米農業協同組合	登録金融機関 東北財務局長（登金）第132号			
宮崎県農業協同組合	登録金融機関 九州財務局長（登金）第95号			
moomooot証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第3335号	○	○	
株式会社武藏野銀行	登録金融機関 関東財務局長（登金）第38号	○		
めぐみの農業協同組合	登録金融機関 東海財務局長（登金）第194号			
山形おきたま農業協同組合	登録金融機関 東北財務局長（登金）第152号			
山形農業協同組合	登録金融機関 東北財務局長（登金）第151号			
山口県信用農業協同組合連合会	登録金融機関 中国財務局長（登金）第154号			
山口県農業協同組合	登録金融機関 中国財務局長（登金）第171号			
よこすか葉山農業協同組合	登録金融機関 関東財務局長（登金）第338号			
横浜農業協同組合	登録金融機関 関東財務局長（登金）第595号			
楽天証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第195号	○	○	○
株式会社琉球銀行	登録金融機関 沖縄総合事務局長（登金）第2号	○		
和歌山県信用農業協同組合連合会	登録金融機関 近畿財務局長（登金）第242号			
和歌山県農業協同組合	登録金融機関 近畿財務局長（登金）第274号			

※上記販売会社情報は、作成時点の情報に基づいて作成しております。

※販売会社によっては取扱いを中止している場合がございます。

## 収益分配金に関する留意事項

- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。

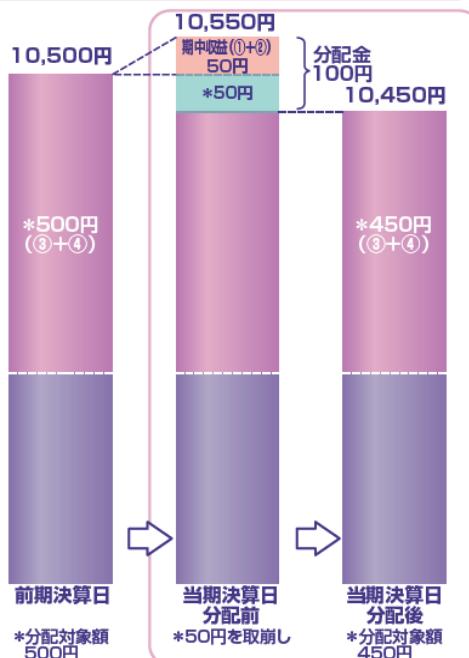
### 投資信託で分配金が支払われるイメージ



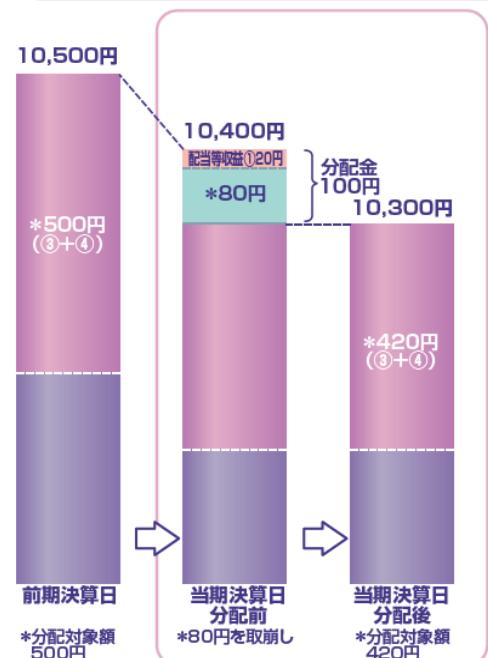
- 分配金は、計算期間中に発生した収益（経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益）を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。

### 計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合

#### 前期決算から基準価額が上昇した場合



#### 前期決算から基準価額が下落した場合



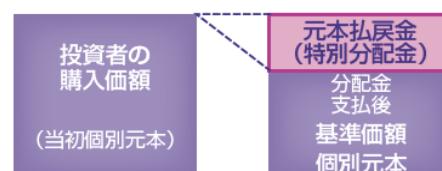
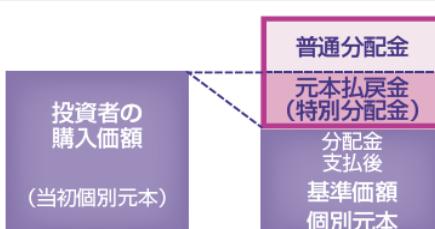
(注)分配対象額は、①経費控除後の配当等収益および②経費控除後の評価益を含む売買益ならびに③分配準備積立金および④収益調整金です。分配金は、分配方針に基づき、分配対象額から支払われます。

\*上記はイメージであり、将来の分配金の支払いおよび金額ならびに基準価額について示唆、保証するものではありません。

- 投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりが小さかった場合も同様です。

#### 分配金の一部が元本の一部戻しに相当する場合

#### 分配金の全部が元本の一部戻しに相当する場合



※元本払戻金（特別分配金）は実質的に元本の一部戻しとみなされ、その金額だけ個別元本が減少します。また、元本払戻金（特別分配金）部分は非課税扱いとなります。

・普通分配金：個別元本（投資者のファンドの購入価額）を上回る部分からの分配金です。

・元本払戻金：個別元本を下回る部分からの分配金です。分配後の投資者の個別元本は、（特別分配金）元本払戻金（特別分配金）の額だけ減少します。